

## アフリカにおける持続可能な森林経営の推進に関する林業担当大臣から第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）へのメッセージ（仮訳）

9ヶ国、国際機関、民間セクターその他関係者を含む合計150人が、2016年8月25-26日、ケニア共和国ナイロビ市で開催されたTICAD VI特別イベントに参加した。

アフリカで初めての開催となった2015年9月の第14回世界林業会議で採択された「ダーバン宣言-2050年の森林・林業ビジョン」を踏まえ、参加者は、「木質エネルギーの将来」、「食料安全保障及び気候変動へのレジリエンス構築のための森林及び土地の再生」という2つの重点的なトピックに関して議論を行った。

TICAD VIは、アフリカを含む国際社会が2015年の画期的な出来事、すなわち2030開発アジェンダ及び持続可能な開発目標（SDGs）、気候変動に関するパリ協定を実施段階へ移行させていくべき重要なタイミングで開催されたことが広く認識された。

これに関し、参加者は、森林及び森林以外の樹木が有する環境、社会、経済の側面に及ぶ多面的な便益について、それらがTICAD全体の文脈に即してアフリカの発展に不可欠であることを十分考慮し、持続可能な森林経営及びアグロフォレストリーの役割を国の開発政策に位置づける重要性を特に強調した。

持続可能な森林経営に向けた確実な進展を図る緊急性を踏まえ、参加者は、以下の行動を提言する。

- ・温室効果ガスの吸収及び貯蔵の保全・強化に関する森林セクターの政策を国の気候変動戦略に統合
- ・REDD+のプログラム及びプロジェクトのさらなる推進等により、森林の減少・劣化の抑止に向けた具体的な行動を実施
- ・森林減少を招く主要な要因としての食料安全保障に対する不安に対処するため、土地利用及びランドスケープ管理の統合的なアプローチを推進
- ・アグロフォレストリー、樹木に覆われた農業、天然更新補助を国の開発政策や計画に位置づけ、小規模農家が貧困の緩和や農村の発展に向けて、これらの取組による便益を最大限享受
- ・食料安全保障の向上、気候変動に対するレジリエンス及び緩和の強化、農村

の貧困への対処等のため、2030年までにアフリカ全体で1億ヘクタールの荒廃した森林及び荒廃地を再生させる目標を掲げた国主体の取組である「アフリカ森林・ランドスケープ再生イニシアチブ」(AFR100)の実施を加速化し、「ボン・チャレンジ」への実施に貢献

- 耐乾燥性樹種の普及を図るなど、気候変動適応戦略の一部として、干魃や洪水に対するレジリエンスを構築
- 利害関係者が持続可能な木質エネルギーの技術を採用するための適切な政策及び制度環境を採択
- 適応及び緩和の行動に関する既存の又は増大する経験や知識から利益を得るため、パートナーシップや南南協力を促進
- アフリカ全土において、森林の現況を評価、報告するための国の能力を強化するため、リモートセンシングを活用した森林モニタリング等、手頃で、かつ、革新的な技術を最大限活用